

第3回委員会までの意見とその対応

[対応欄の色凡例] 黄色: 本日の議事に関連する内容、水色: 今後対応予定の内容、白色: 対応済みの内容

■第3回委員会での主な意見と対応

意見のカテゴリ	内容	対応
上位計画について	<ul style="list-style-type: none"> 上位計画では、国の緑の基本方針の次に、都道府県レベルでの緑の計画が位置づけられるようになる。大阪府の緑の広域計画がアップされたら、本計画との関連性をチェックしていただきたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府から公表された内容を反映 【公表後に反映】
基本方針の図について	<ul style="list-style-type: none"> 市民さくらまつりは、活用よりも一步進んだ共創の代表例ではないか。（加我委員長） （上記加我委員長の発言に対して）そのイメージは、基本方針の図の幹のイメージか、果実が落ちて新しい木が生えるようなイメージになるのではないか。（井下委員） 基本方針の図については、イメージを膨らませて議論できるとよい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の図を再考 【第4回、計画素案 P. 37】
地域別の特徴や取組み方向性のまとめについて	<ul style="list-style-type: none"> 樹林を維持管理していく方針が示されているが、地域の図面では、樹林がどこにあるか分からぬ。（都解委員） 茨木市では保存樹木制度は運用されているのか。（都解委員） 今の図面のスケールでは保存樹の表示が難しいため、別の図面に保存樹の位置を点で入れていくとよい。（加我委員長） 総合公園、地区公園、近隣公園が、どのような区別で、そのような趣旨や目的のものか分かるようになるとよいのではないか。（都解委員） 公園種別について、都市公園法施行令に基づく内容を別資料で提示していただくとよい。写真を差し込み、コラムとして紹介していただくこともよいのではないか。（加我委員長） 住んでいる場所から遠い公園は分からぬため、一部の公園だけでなく、一覧として紹介いただくことは難しいだろうか。（井下委員） 都市公園とスポーツ庁・教育関係が、スポーツ・レクリエーションや健康に一体的に取組んでいこうという時代になってきており、このあたりについてもコラムで紹介いただけるとわかりやすいのではないか。（加我委員長） 近隣公園の中でも防災的機能を備えている岩倉公園や、一時避難地に指定されている公園など、防災公園の話もコラムにいれるとよいのではないか。（加我委員長） 岩倉公園については、立命館大学キャンパス内の広場や、里山として整備された明るい森があることをご紹介いただきたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 保存樹を表示した図を作成 【第4回、計画素案 p. 13】 公園種別について紹介するコラムを検討 【第4回、コラム項目案】 コラムでの紹介を検討 【第4回、コラム項目案】
具体施策について	<ul style="list-style-type: none"> 関係課について一覧を示していただけるとよい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 関係課の一覧を作成 【第4回、参考資料4】

第4回茨木市みどりの施策推進委員会 資料

意見のカテゴリ	内容	対応
	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃活動や花の世話など公園での活動が、健康増進や子育て世代のコミュニケーションの場になるような、自主的に楽しんで参加できる何かがあるとよい。（高原委員） ● 任意団体と市が美化協定を締結し掃除用具を支給する制度を、ぜひとも活用いただきたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体施策に反映 【第4回、計画素案 p. 41④、p. 44②、p. 45④等】
	<ul style="list-style-type: none"> ● 北部だけでなく元茨木川緑地にもたくさんのお宝があるが、それらが活かされていない。どのような計画で植えられたのか分からぬが、この辺りでは見られない珍しい樹種が多くあり、植物園代わりに楽しめる。サクラの種類も多いが、最近弱ってきてる。以前、市から頼まれてさくらクイズを作ったが、その年の1度きりで継続されてない。（高原委員） ● 環境政策課主催の観察会の参加者はリピーターが多い一方で、市立小学校のアンケートではこういった情報をもっと知りたいという意見がある。（高原委員） ● 元茨木川緑地での取組みやイベントについて、環境政策課とバラとカシの会にヒアリングを行っていただきたい。（加我委員長） ● 元茨木川緑地の整備時の事などは、コラムか何かで紹介いただけとよい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境政策課とバラとカシの会にヒアリングを行い計画案に反映 【第5回、計画案】
	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本方針3「共創によるみどりのまちづくり」の具体施策「(2) 緑に親しみ、学ぶイベントの開催」は、基本方針1「みどりの活用」の具体施策になるのではないか。例えば「①市民さくらまつり（元茨木川緑地）」は、「みどりの活用」の中の「⑤交流・観光、地域活動分野」や「①健康づくり、レクリエーション分野」になるのではないか。（井下委員） ● 市民さくらまつりは、活用の際に、多様な主体による様々な活動の活動の掛け合わせで、相乗効果が生まれている共創の代表例ではないか。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民、企業、行政の共創で展開していくことを考えており、「共創によるみどりのまちづくり」の具体施策としている
	<ul style="list-style-type: none"> ● 里山まつりは、市外から多くの来場があり、北部の森林などに興味を持っていただける機会となっていた。（高原委員） ● 緑や里山との接触を深めていただけるよう、ダムパークいばきたを含めた北部地域でのイベントプログラムの情報発信をお願いしたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体施策に情報発信に関する内容を入れている
評価指標の緑の満足度について	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑の満足度について、「緑に対して満足しているか」という質問では、わかりにくいのではないか。（浅井委員） ● 茨木市の緑の満足度 21.8%は、他市と比べると低い。まちなかの緑は少なくはないと思うので、緑との接触頻度をどう高めていくかである。満足度は、量を増やしていくだけでなく、どれだけ色々なお宝に触れていただくかが大事になってくる。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問の改善案を検討 【次回中間見直し時に検討】 ● 緑と人をつなぐ取組みを具体施策に拡充している
公園利用実態調査結果について	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園を使っていないことも維持管理の費用と人手がかかるため、残していきたい気持ちはあるが塩梅が難しく、大きな課題だと感じた。（浅井委員） ● 近所迷惑になるボール遊びを禁止するのではなく、こんなボール遊びはしてもいいというような地域ごとの公園の使い方を皆で考え、こども達を応援してあげたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● R8 年度以降に策定予定のパークマネジメントプランの中で検討 ● R8 年度以降に策定予定のパークマネジメントプランの中で検討

■第2回委員会での主な意見と対応

意見のカテゴリ	内容	対応
課題整理について	<ul style="list-style-type: none"> 市全体と地域ごと、それぞれの特性と課題を示した方がより分かりやすいのではないか。（石原委員） 地域別の課題は共通のことを見出すためのものか、地域ごとに捉えておいた方が良いのかは、一度、市全体としての共通項を整理していただいて議論できればと思う。（加我委員長） 山が管理されてないから土砂災害が起きることは、中流・下流域にも繋がる。災害のことを課題として示した方が良いのではないか。（石原委員） 特に北部地域は、山地、丘陵、河川、水路、里地里山、農地、ため池といった多様な緑について、土砂災害をはじめとした災害発生時に果たす役割について確認しておく必要がある。（加我委員長） 「適切な農地や森林の維持管理が困難になる事態が予測される」とあるが、既にそういう事態になっていると書かないといけない。（都解委員） 保存樹林やまち中の農地などの残された空間は良いところでもあるため、維持していくことも課題かと思う。（都解委員） 写真が公園に特化しているので、農地や樹林もあればと思う。（都解委員） 屋敷の緑やまちなかの緑、神社の緑を追加いただければと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別の特性と課題を、地域ごとに捉えておいた方が良い事を軸に再整理 【第3回、資料5 p. 3～6 ■地域別みどりの特徴・課題・取組の方向性案】 計画素案に反映 【第4回、計画素案 p. 3 緑の効果、p. 29④、p. 32～33 緑の課題「保全・育成」】 計画素案に反映 【第4回、計画素案 p. 32～33 緑の課題「保全・育成」】 地域別の特徴・課題の整理において、公園以外の写真を追加 【第3回、資料5 ■地域別みどりの特徴・課題・取組の方向性案】
公園へのニーズについて	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化の時代のため、ヨーロッパの公園のような、遊具が無く、広く、樹木が多い、大人も憩えるような場所が求められていると思う。（高原委員） 散歩される健脚な方を受け止める公園と、買い物途中に少し立ち止まって休める場所として小さな公園が必要な場合もある。（加我委員長） 遊具を置くだけではなくて、ちょっと休憩できるような活用ができれば良いと思う。（浅井委員） みどりの活用や共創によるみどりのまちづくり、子ども、大人、高齢者の健康を受け止める公園という観点が必要である。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 具体施策に反映 【第4回、計画素案 p. 45④】 R8 年度以降に策定予定のパークマネジメントプランの検討時にも留意
緑の将来像について	<ul style="list-style-type: none"> 緑の将来像にある「まちの緑の核」などの「〇〇の緑の核」の核とは何を意味しているのか、具体性を持って説明された方が良い。（石原委員） 	<ul style="list-style-type: none"> 表現を「緑の拠点」に改め説明を追加 【第4回、計画素案 p. 35 緑の将来像】
みどりを取り巻く状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> 最近、国も緑の基本方針を出し、気候変動、防災、健康、生物多様性、賑わいということが記載されていたかと思う。特に気候変動、生物多様性、ウェルビーイングということで、その中で防災対策を含めて充実させていただければと思う。みどりを取り巻く状況の変化にも追記いただきたい。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> 計画素案に反映 【第4回、計画素案 p. 29 社会潮流の変化】

第4回茨木市みどりの施策推進委員会 資料

意見のカテゴリ	内容	対応
基本方針について	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本計画改定の視点で、「環境基盤（グリーンインフラ）としての機能を整える」と記載されているが、それについては基本方針の中のどこで謳われるのかが見えてこない。防災性能や基本的な方針がどのように関連するのかを示していただきたい。（石原委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本方針3「みどりの保全・創出」本文の“質の高い緑”に含む ● 環境基盤に関する具体的な取組みは、具体施策で示す 【第3回、資料5■改定計画の構成、資料6具体施策（案）】
具体施策について	<ul style="list-style-type: none"> ● 生き物のことは遠慮がちになっていたが、「みどりとみどりを繋ぐ」というホットスポットの観点については充実させていただきたい。（加我委員長） ● 生物多様性をということであれば、多様性を豊かにするような維持管理についても考えてほしい。（高原委員） ● 大きくなりすぎて危険木になっていることも含めて、どのように計画に記載するかを検討していければと思う。（加我委員長） ● “ひと”と“ひと”というところで、茨木市で事業をされている方は茨木市で何かしたい、子どもたちのためにこれをやっていきたいという意識を持った事業者が多いと思う。市民だけではなく、企業も巻き込めるようなことを文書化や形にできればと思う。（浅井委員） ● 公園と同じように共創だけではなくて事業としてやらないといけないことがあると思うので、基本的な方針に森林も当てはまるかと思う。そのうえで、施策にも森林のことを組み込んでいただきたい。（都解委員） ● こういう遊びをしても良いよ、許可がなくてもこんな遊びが緑ではできるというイメージがあれば、みどりの使い方として面白いものが出てくるのではないかと思う。（井下委員） ● 地域の置かれている課題に対して、他の分野の方とも議論しながら緑の基本計画に盛り込んでいければと思う。（加我委員長） ● みどりと人が繋がることを考えた時に、誰もが公園を使えるインクルーシブな、そしてユニバーサルな公園みたいなところにもう少し踏み込んで提案されたら良いのではないか。（石原委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連課にヒアリングを行い、生物多様性や森林保全、樹木、事業者との共創に関連する取組みを計画に反映する 【第3回、資料6具体施策（案）】 ● コラムの「利用者で考える公園の利用ルールづくり」の中で、許可が不要な遊びの事例を紹介 【第4回、コラム項目案】 ● 庁内ヒアリングを実施 ● R8年度以降に策定予定のパークマネジメントプランの中で検討

■第1回委員会での主な意見と対応

意見のカテゴリ	内容	対応
アンケート結果について	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑が増えているかの回答に地域差があるとの結果であるが、これは回答者の実感としての増減か、実際に増減しているのか。また、不満が多いという結果については、具体的に何に対する不満であるのか。（福田副委員長） ● みどりに関して苦情が多いのが現状である。この不満の要因分析をしていかないといけないと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自由記述の結果などから不満の要因分析を行う。 【第5回、計画案に反映予定】
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「公園の利用頻度が高いほどみどりに対する満足度が高い」について、みどりに満足するから使うのか、使うからみどりに満足するのか、それによって何をするのかが変わってくると思う。（井下委員） ● どちらからも説明があるというのが重要かと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園自体の魅力向上と、利用頻度を上げる取組の両輪での取組の反映について検討する。【第3回、具体施策・評価指標】
	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民アンケート結果について、家族構成はどうなっているか。公園の利用はライフステージによって変わってくる。緑を感じるというところで、例えば南部の方が北部へ移動して緑を感じるということもあるのではないか。（浅井委員） ● 地域で育んでいくべきみどりと、他地域から呼び込むみどり、それは市全体のみどりになるかもしれないが、両輪が考えられるかと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢層別や地域別の分析結果も踏まえて、住む人、訪れる人それぞれの視点から緑への満足度を高める取組について検討する。【第3回、具体施策・評価指標】
現状と課題の整理について	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状を把握して次に繋げていく話が必要であるが、課題が明確でないと次に繋げにくい。課題の整理をしていただけると良いかと思う。（都解委員） ● 次回は量的ではなく、質的な課題についても示していただければと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2回において、地域別の特性と課題について整理した結果を示す。【第2回、地域別みどりの特徴・課題】
上位関連計画について	<ul style="list-style-type: none"> ● 上位関連計画として農林関係のことも重要であるため、そのあたりについても情報提供いただければと思う。（加我委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施策検討にあたり農林課へのヒアリングを実施し、充実を図る。【第3回、具体施策】
公園の利用ルールについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもにとっては、ボール遊びができる公園が増えれば良いと思う願望がある。お年寄りにとっては、座るところがなく、歩いて行ける範囲で休憩できる場所があると良いと仰っていた。（古川委員） ● 公園ごとに考えていく必要になってきているのだと思う。どれくらいの規模のところで、どのように対応していくのかが大事になると思う。（加我委員長） ● 地元の人や利用者でルールを作って運営していくこともできないか。（福田副委員長） ● 公園のルールを自治会で作るということを協議会に提案で出してみようと思う。（古川委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年代ごとのニーズや地域特性を踏まえた既存公園のマネジメントに関する検討を進める予定であり、基本計画にもその考え方を示す予定。【第3回、具体施策、推進方策】

第4回茨木市みどりの施策推進委員会 資料

意見のカテゴリ	内容	対応
	<ul style="list-style-type: none">● 公園のリニューアルの時期を迎えていると思うが、施設のライフサイクルを見越してやっているのか。廃棄まで考えておかないと、結局次の世代が苦労する。そこをイメージしてやってこられたのかについて、次を考える上では大事であると思う。（福田副委員長）● 公園は遊具絶対必要なのか。（福田副委員長）● 近年、漸く公園整備数の傾きが緩やかになり、工夫できるようになってきた。再整備に際して、遊具設置の有無や種類に関する選択肢の可能性が非常に高まった。（加我委員長）	<ul style="list-style-type: none">● 整備後相当年数が経つ公園が多数存在する状況であり、それらのリニューアルにあたっては特色ある公園づくりや役割分担などの既存公園のマネジメントについて検討予定であり、基本計画にもその考え方を示す予定。【第3回、具体施策の検討】